



ニュースリリース PGJPR26-001
メディア関係者 各位

2026 年 1 月 16 日
ピアッジオグループジャパン株式会社

アプリリア レーシング の 2026 年シーズンのマシン“RS-GP26”を発表

ライオンが主役の新たなカラーリングで昨シーズン以上の活躍が目標



ミラノ、2026 年 1 月 15 日 - Aprilia Racing は、2026 年 MotoGP シーズンが 2 年目となるにマルコ・ベッツェッキとホルヘ・マルティンのコンビにて挑む新型マシン Aprilia RS-GP26 を発表しました。

Aprilia Racing の象徴的なグラフィックを再び採用した RS-GP26 の新たなカラーリングの最大の特徴は、Aprilia ブランドの歴史において高貴なシンボルであり、Aprilia Racing の DNA の一部でもあるライオンの復活です。Aprilia Racing が拠点を構えるノアーレからは数キロのところに位置し、この地方でのシンボルであるベネツィアの翼の生えたライオン“レオーネ・アト”は、地域との強い絆を表すだけでなく、チームとライダーのアイデンティティ、つまりパワー、強さ、決意、勇気を完全に反映した価値観を体現しています。それは、決して諦めず、困難に果敢に立ち向かい、さらに強く、より揺るぎないパワーを持つチームの象徴です。

Aprilia Racing にとって史上最多勝利を記録した昨シーズンを上回る結果を残すことが 2026 年の目標です。昨シーズンは、マニュファクチャラーズ・チャンピオンシップで 418 ポイントを獲得して 2 位となり、史上初めて 400 ポイントの壁を破りました。また、ライダーズ・チャンピオンシップでは、マルコ・ベッツェッキが 353

aprilia RACING

ポイントを獲得して 3 位となり、Aprilia Racing の MotoGP 史上、最高の結果となりました。これに加えて、スプリントレース 3 回、メインレース 4 回で合計 19 回の表彰台獲得、これまでの記録に並ぶ 5 回のポールポジション、そしてオーストラリア GP では aprilia にとって 300 勝目となるなど、数々の印象的な成績を残しています。この記録は後に 302 勝にまで伸び、Aprilia Racing は世界グランプリの歴史上、最も勝利を収めたヨーロッパのメーカーであることを確固たるものにしました。

2026 年シーズンを戦うライダーは、マルコ・ベッツェッキとホルヘ・マルティンです。昨シーズンのベッツェッキは、ライダーズチャンピオンシップのランキングで総合 3 位を獲得するなど、非常にハイレベルなシーズンを牽引し、Aprilia Racing 史上最高のライダーとしての地位を確立しました。ベッツェッキは、チームと共に築き上げてきた上昇気流を継続させることを目標に、2026 年シーズンに臨みます。

怪我に悩まされた 2025 年シーズンを経て、フロントフェアリングに 89 番のゼッケンを付けるホルヘ・マルティンは、新たなシーズンに挑むべく準備を整えています。マルティンにとって 2026 年は気持ちを新たに、強い決意と自身のポテンシャルを最大限に発揮したいという強い意志を持って臨みます。

ファクトリーライダーをサポートするテストライダーには、近年 RS-GP の開発と成長に多大な貢献を果たしてきた、ロレンソ・サバドリーが引き続き就任しました。



Aprilia RS-GP26 は、Aprilia Racing の MotoGP プロジェクトにとって重要な進化を示しています。最高レベルで競い、Aprilia Racing を MotoGP の主役として確固たる地位にするために、あらゆる細な部分まで再設計。エアロダイナミクスがさらに合理化されたシャーシや電子制御、そして V4 エンジンに至まで、レギュレーションによる規制の対象とならないすべてのコンポーネントにわたって徹底的な開発が行われ、あらゆる領域で改良がおこなわれました。ファビアーノ・ステルラッキーニ率いるノアーレのテクニカル部門は、その

aprilia RACING

DNA を忠実に守りながら、イノベーションをビジョンの中核に据えたバイクを開発するという新たな挑戦に取り組みました。

RS-GP26 は、究極の空力性能、ライド・ハイト・デバイス、そして 1000cc エンジンなどにより、MotoGP 史上最速となる GP マシンの技術的に最新進化形となります。これらのテクノロジーは 2027 年以降のテクニカルレギュレーションによって使用できなくなり、RS-GP26 は事実上 Aprilia Racing 史上最速のプロトタイプマシンとなるでしょう。

マルコ・ベッツェッキとホルヘ・マルティンは、テストライダーのロレンソ・サヴァドーリと、トラックハウス MotoGP チームのラウル・フェルナンデス、そして小椋藍からのフィードバックを受けながら、引き続き堅固で団結したチームと共に戦います。トラックハウスのプロジェクトは単なるサテライトチームではなく、戦略的パートナーとして RS-GP の継続的な開発に不可欠な貴重なデータを共有し、イノベーションプロセスに貢献しています。



マルコ・ベッツェッキ

『やっとバイクの話に戻ることができて嬉しいです、早くスタートを切りたい気持ちでいっぱいです。まだやるべきことはたくさんありますが、実際には歩みを止める事なくノアレーのチームは懸命に働いてくれてますし、私もコンスタントにトレーニングを続けています。モチベーションは非常に高く、バイクに乗って楽しめる日が待ち遠しいです。2025 年シーズンの最終戦は非常に好調で、私たちはさらに自信を深めています。私たちの目標は、好調なスタートを切り、引き続き良い成績を残すことです。』

ホルヘ・マルティン

『去年の Aprilia との経験、そしてバレンシアでのとても重要なテストを経て、今、私たちの目標を挙げるとするならば、共に成長し続けることです。シーズン開幕に向けてやるべきことはたくさんあると思いますが、改善すべき点は十分に理解しています。今年は再び上位争いに加わり、勝利を掴みたいと思っています。体調が 100%回復したら、どんなことにも対応できるようになるでしょう。』

ロレンツォ・サバドーリ

『2026 年シーズンの開幕が待ちきれません。最大の目標は、バイクの改良を継続し、2025 年に着手した取り組みと方向性をさらに前進させ、Aprilia が常に上位を走る姿を見ることです。シーズンを通してワイルドカード枠でいくつか参戦し、RS-GP26 の開発に全力を尽くします。これらに加え、4 月頃からは 2027 年シーズンを見据えた開発作業も開始します。』



マッシモ・リボラ (Aprilia Racing CEO)

『私たちは、自分たちがどうなっているのか』

、そしてどこに行きたいのかを十分に理解した上で、2026 年シーズンに取り組んでいます。2025 年は好調な成績を収め、非常に高いレベルでの競争力を獲得しました。これからの目標は、すべてのレースでその様に戦うことです。ガレージ内には 2 つの異なる道があります。ひとつはマルコとともにシーズンの終わりに示されたレベルから再スタートを試み、もうひとつはホルヘとともに多くのことを構築していくことです。私たちは RS-GP26 をとても信頼しており、このマシンにはライダーと同様に大きな可能性があると考えています。』

◇報道関係者お問い合わせ先:

ピアジオーグループジャパン株式会社

〒108-0073 東京都港区芝 2-12-10 タカナミビル1F

○ PR マーケティング: 河野 僚太 (こうのりょうた)

E-Mail press@piaggio.co.jp

代表電話 03-3454-8880 FAX 03-3454-8868